

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4373201146
法人名	社会福祉法人鶴亀会
事業所名	グループホーム 龍ヶ岳
訪問調査日	平成 20 年 11 月 28 日
評価確定日	平成 21 年 3 月 15 日
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年12月26日

【評価実施概要】

事業所番号	4373201146		
法人名	社会福祉法人鶴亀会		
事業所名	グループホーム 龍ヶ岳		
所在地 (電話番号)	上天草市龍ヶ岳町大道158 (電話) 0969-63-0131		
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成20年11月28日		

【情報提供票より】(20年10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	6.2 人

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄筋造り平屋	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	240 円	昼食 380 円
	夕食	380 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 87 歳	最低	77 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	上天草総合病院 道脇歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

30年以上の歴史を持つ特別養護老人ホームに併設して設置され、蓄積された介護経験と時代に即した介護観に基づいて、認知症の介護が展開されている。「その人らしさ」をケアの基本とし、入居者・家族の意向を大切に、個々の特性や状況に配慮した細やかなケアが実施されている。管理者は変遷する介護情報に精通しており、長期展望を持ってホームの運営に当たり、介護の目指す方向を明確に示している。職員は管理者の思いを共有しており、ケアの様子からその実践に努力していることが感じ取れた。また、入居者の穏やかな表情やゆったりとした生活の様子からも、安心した暮らしが得られていることが伺えた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>「できることはすぐしよう」をモットーにしており、改善に速やかに取り組む姿勢が伺える。外部評価で提案された課題は、法人の運営方針や地域の特性を踏まえて更に検討し、改善に臨んでいる。前回の課題のうち「運営推進会議の活用」については、継続して改善に努めており、徐々に効果が表れてきている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員が自らのケアとホーム全体のサービス状況を振り返り、意見を出し合っており、評価を行っている。自己評価内容から、現状を客観的に見直す姿勢が伺え、更なるサービスの向上を目指して自己評価に取り組んでいることが感じ取れた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議では、ホームの活動状況の説明や自己評価・外部評価の報告が行われ、質問にも丁寧に対応されている。参加者からの意見・要望がなかなか出ない状況であったが、ざっくばらんな雰囲気作りを心がけ、徐々に質問や要望が出始めている。意見・要望はサービス内容に取り入れていく方針であり、会議が更に話しやすい場となるよう努力していく意志が確認できた。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族からの積極的な意見が少ない中で、家族の思いを汲み取り、サービスに反映する努力が行われている。毎月ハガキによる近況報告を行い、家族の訪問時や随時の電話連絡でもコミュニケーションを深め、言葉には出ない要望も推し量るよう努めている。家族アンケートには安心と感謝の言葉が多数見られ、満足度が高いことが伺える。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣に民家が少なく、また、ホームが法人敷地の奥に立地していることから、日常的な近所づきあいは難しい状況にあるが、地域に呼びかけ、秋祭りには獅子舞や子供御輿に来てもらうなど、交流の機会作りが行われている。職員の半数は地域に在住しているため、地域の情報が入りやすく、話題に取り上げ入居者に喜ばれている。同敷地内の特養やデイサービスには地域からの利用者が多く、在宅時の知人との交流が継続されている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は開設時に作成され、心身の健康と、地域の中でその人らしい暮らしが継続できるように支援する旨が謳われている。管理者の福祉に対する高い志が反映されており、日々の介護の拠り所となっている。	○	理念の見直しは、地域の状況や入居者のニーズの変化に応じて実施する方針が立っている。その際は職員全員で検討されると、職員の意識が一層深まると考える。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング等で理念の意味を考え、具体的なケア内容を検討している。検討を通して、職員に理念が共有され「その人らしい暮らし」の実現に向けた努力が続けられている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	立地条件から近隣住民の訪問は少ないが、地域との交流に努めており、秋祭りの獅子舞や子供御輿などが訪れ、入居者に喜ばれている。職員の半数が地域在住で、獅子舞のメンバーには職員も参加しており、また、暮らしの中で地域の情報が話題にあがるなど、地域とのつながりを深めている。母体特養の行事に参加、入所者を訪問することもあり、法人内での交流が図られている。デイサービスの利用者の中には、在宅時の知人がおり、ホームに入居後も交流を継続している。	○	介護講座の開催や、ホームの見学を老人会・婦人会に呼びかけるなど、ホーム開放の機会を工夫されると、訪問者が増え、一層交流が活発になると思われ、今後の工夫に期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を理解し、全職員が協力して自己評価に取り組み、1年間のケアの振り返りを行っている。評価で見出された課題については、内部研修会の場で取り上げ、改善に向けた検討を実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、市職員、消防署職員、区長、入居者・家族の代表が参加し、ホームの活動状況や外部評価結果の報告や説明、協力依頼等が行われている。参加者からの質問には、丁寧に説明を行い理解を得ている。意見・要望等の提案は少ないようであるが、言い出し易いように声かけなど行い、双方向の会議となるよう努力されている。	○	老人会や婦人会、地域包括支援センター等の参加を呼びかけるなど、多様な意見・アドバイスが得られるような工夫も検討されると良いと考える。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員とは、運営推進会議以外には交流の機会が少なく、相互に行き来する機会を増やす必要性を感じておられた。	○	市町村合併により市役所が遠くなり、頻繁な交流は困難な状況だが、市担当者との協働関係作りには、具体的な交流の機会の創出が期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月ハガキで近況報告を行い、行事の後には写真を同封した手紙で、ホームでの暮らしぶりを伝えている。ハガキや手紙は、絵手紙であったり、入居者の直筆を添えるなど、担当スタッフが各自工夫し家族に喜ばれている。家族の訪問時には、ケース記録を見てもらいながら状況報告し、金銭管理も出納簿を提示し、報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時には笑顔で声かけし、話しやすい雰囲気作りが行われている。家族の話をしっかりと聞き、要望にはできるかぎり沿いたいという姿勢で接しており、信頼関係が築かれている。家族アンケートでは「よく話を聞いてくれる」「状況や要望に合わせて、柔軟に対応してくれる」の回答が多く見られ、サービスに満足されていることが読み取れた。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を重視し、法人内の異動は最小限に抑えられている。やむを得ない場合には、異動前に入居者個々の特性やケアの留意点等の資料を渡し、ホームに勤務する時点には既に入居者を理解できているように図っている。また、入浴介助や夜勤は馴染みの関係が築かれるまで待ち、最初は先輩職員に付いて指導を受けるなど、入居者に不安を与えない配慮が行き届いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回内部研修を実施。ホームの食堂で行う事で、勤務者も入居者の見守りを兼ねながら参加できるよう工夫し、全員参加で実施されている。認知症の専門医や母体特養の看護師、料理長等を講師に迎え、グループワーク形式にするなど効果的な研修が実施されている。天草支部グループホーム連絡会が主催する3ヶ月に1回の研修など、外部研修には習熟度に応じた参加を行っている。ミーティングでの意識付け、実務の中でアドバイスも行われており、ケアの質の向上を目指した取り組みがみられた。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	天草支部グループホーム連絡会の研修会や、他のグループホームとの相互の見学研修で情報交換が行われ、サービスの質の向上を目指した交流が図られている。	○	連絡会では交換研修の声も挙がっており、今後スタッフ職員の1日交換研修などの実施が期待される。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	急な入居になるケースが多く、事前の見学や体験などが充分できない場合もあるが、入居後しばらくは個別対応を密に行い、早くホームに馴染んでもらえるよう努めている。また、家族や友人、知人の訪問を呼びかけ、入居者の不安を軽減するようにしている。食事の席は、他の入居者との相性を考慮して決めるなど、入居者同士の関係作りにも配慮が見られる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯物たたみなどの家事は、入居者の意欲や力に応じて声かけし、職員と一緒にやっている。以前は調理ができた人も現在はできなくなっているが、職員が調理する様子を見てもらい、アドバイスをもらうよう心がけている。職員は互いに協働する意識を持ち、何かをしてもらったら「ありがとう」の言葉が自然に発せられ、入居者からは「お互い様」の言葉が返ってくる関係が築かれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、入居者の声に傾聴する姿勢を持ち、何気ない言葉も情報ノートに記録することで、思いを把握するよう努めている。介助時には誘導の声かけの後に「いいですか」と必ず意思を確認する様子が見られ、意向に沿った支援に努力していることが感じ取れた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントは全職員で検討。介護計画は、介護支援専門員を中心に、本人・家族の希望を踏まえ、職員の意見を取り入れて、作成されている。最初は遠慮がちであった家族も、コミュニケーションに努めた結果、最近では要望を言い出すようになってきており、入居者・家族の意向を反映した計画となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、6ヶ月毎にスタッフ会議で評価・見直しを実施している。心身の状態変化が見られた場合は、直ちに計画を見直し、家族とも話し合い、現状に即した内容に変更している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体法人の特養やデイサービスが同敷地内にあり、連携した支援が実施されている。疾病や外傷には特養の看護師の支援があり、夜間など看護師不在の時にも電話で相談できる体制が作られている。法人内の利用者との交流が容易であり、知人を訪問したり、訪問されたりの関係が継続できている。通院、外出等には職員が付き添って送迎し、高齢者家族の負担軽減となっており、また、受診後の報告が丁寧に行われ、信頼されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の利用は本人・家族の意向に添って決定。通院は家族と協力し、職員も付き添って、医師に情報を提供し、療養上の指示を受けることで治療効果を高めている。かかりつけ医とは密接な関係ができており、夜間の緊急対応や訪問診療も可能になっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期について、ホームで対応できる限界を明確にしておき、入居時に説明し、意思確認書の提出を得ている。本人・家族の意向に添った支援に努めるが、医療管理の必要性が濃厚になると、ホームでの対応は困難で、その都度話し合う対応が取られている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者と職員の会話は方言が飛び交い、地元の人でなければ通じない表現もあり、親しみ深い関係が築かれていることが伺えた。職員は天草弁の敬語を使い、静かな物言いで、安心感を与える言葉かけが行われていた。トイレの声かけは小声で行われ、ドアの外でさりげなく見守るなど、羞恥心に配慮したケアが見られた。失禁の際は他の入居者に気づかれないよう素早く対応し、職員間で伝える際には暗号を用いるなどの工夫も行われていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの思いや生活のペースを大切にしたい援助が行われている。したいこと、したくないこと、意思を尊重し、無理強いすることなく自由な暮らしができるよう支援している。昼食後のひとときは、テレビを見る人、ソファでのんびりする人など思い思いに過ごされていた。数人でテレビを見ている時、1人がテレビを切ってしまうことがあるが、職員が中に入って、気分を切り替える声かけを行うなど、場を和ませる努力が感じ取れた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人ひとりについて好き嫌いを綿密に記録、キッチンに掲示し、献立作りや、調理・盛りつけの際に活用している。管理者の運営方針で、職員は食事を共にしていないが、月に1回「鍋の日」を決め、全員で鍋を囲んで食事し、入居者・職員共に楽しいひとときを過ごしている。	○	家庭的な雰囲気作りのためにも、食事は入居者と同じものを一緒に摂ることが好ましいと思われる。職員全員で検討し、工夫されることが期待される。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望に沿った入浴支援が行われている。午後の時間帯の入浴を希望する人が多く、毎日の入浴を希望する人にも対応している。腰痛がある人、皮膚疾患がある人には毎日の入浴を勧めている。介助は職員1人が必ず付き添っているが、重度化が進み2人での介助が増えている。入浴拒否の人には、タイミングを得た言葉かけや、希望の職員が介助に対応する等工夫し、気分良く入浴できるように努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	文化祭や七夕、クリスマス等四季折々の行事を企画し、入居者と共に準備する中で、季節の移ろいや達成感を感じ、喜んでもらえるよう努めている。廊下に掲示された写真には、野球選手やサンタクロースに扮した入居者の姿もあり、楽しんでいる様子が伝わってきた。毎月の家族へのハガキには、入居者に直筆のコメントを頼んだり、無理な人には名前だけでも書いてもらうなど、個々の持つ力を発揮できる機会が作られている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や外出は「希望があったその時に対応」していきたいという方針のもと、職員配置を工夫し支援を行っている。法人全体の敷地が広く、適度な散歩コースになっている。歩行能力が低下し外に出たがらない人には、裏庭の墓石まで「お参りに行きましょう」と誘い、外気に触れる機会を作っている。本渡市や5号橋近くの馴染みの店や場所への外出希望にも対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は施錠せず出入りは自由になっている。危険防止のため、調理担当者は食堂とリビングを、他の職員は廊下の様子を見守り、1時間に1回は所在確認を行っている。職員が屋外に出る時は「行ってきます」の声かけを行い、不在になることを他の職員に伝えている。聞いた職員は「行ってらっしゃい」の応答で了解した合図にしており、安全への配慮が徹底している。外出の気配は玄関手前までに気づき、さりげなく声かけし、付き添って出かけるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得て、避難訓練や消火訓練を実施している。他にも、2ヶ月に1回は職員で想定訓練を行い、年2回は夜間抜き打ちでの緊急連絡網の訓練を行うなど、熱心な取り組みが行われている。近隣に民家が少なく地域からの応援は得られにくいですが、隣接の特養からの応援体制が作られている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な人には週1回体重測定を行い、測定表をキッチンに掲示して情報を共有し、毎日の摂取カロリー調整を行っている。飲水量もチェック表を用いて把握し、不足気味の人にはこまめに水分摂取を勧めている。母体特養の調理長を講師に勉強会を実施し、毎月のテーマを決めて各自料理を考案する仕組みがあるなど、栄養バランスや食べやすさに配慮した美味しい食事の提供に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除が隅々まで行き届き、清潔で明るい環境が整えられている。玄関には、「我が家のかぞく」の言葉と共に、うちわにアレンジした入居者個々の笑顔写真、手作りの「行ったつもりの旅行写真」等が貼られ、訪れる人を全員の笑顔で迎えてくれている。リビングは静かで穏やかな雰囲気が漂い、入居者がのんびり過ごされている様子が感じ取れた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族への協力を促し、整理ダンス等の家具や人形など、馴染みの物が持ち込まれている。壁に家族写真やプレゼントも飾られ、家族の愛情を身近に感じられる居室があり、持ち込みの少ない居室には、入居者と共に作った小物を飾るなど、居心地良い部屋作りが行われている。</p>		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム龍ヶ岳
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県上天草市龍ヶ岳町大道158番地
記入者名 (管理者)	長山省己
記入日	平成 20年 10月 27日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の見直しは特に行っていない。	○	地域や利用者のニーズ、事業所の状況によって現状に合った理念に変えていくことが必要。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングでは、理念を掘り下げて職員全体で話し合い、具体的なケアについての統一を図っている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族の訪問時には、折に触れ繰り返し伝えている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の人とのふれあう機会は少ない。	○	増やしていく必要があり、運営委員会の方と相談していく。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りには参加していないが、獅子舞や御神輿の訪問をお願いし、来ていただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所の成果を地域の方に伝える場合は、運営推進委員会(=運営推進会議)以外は今のところない。	○	地域の研修や啓発の場に職員等が出かけて行き、成果を伝える必要がある。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は研修会で報告し、改善に向けて具体案の検討や実践につなげるための努力をしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会では事業所からの報告と共に参加メンバーから質問、意見、要望を受け、双方向的な会議となるよう配慮をしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員の方の運営推進委員会以外の行き来をする機会が少ない。	○	機会を増やす必要がある。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会を行っていない。	○	勉強会を開き、職員の理解を深める必要がある。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等を実施し、高齢者虐待防止法に関する遵守に向けた取り組みを行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な内部研修を行い、外部研修にも習熟度の段階に応じて積極的に参加し、研修報告の機会も設けている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の連絡会があり、その中で交換研修やスタッフ研修を設けて質の向上に励んでいる。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務上の問題や健康上の相談をいつでも相談可能にしている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の資格取得について勤務の調整等、便宜を図っている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居者によっては、利用前の関係作りが不十分な場合もある。	○ サービスの利用開始前の関係作りが必要。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居者によっては、利用前のご家族との関係作りが不十分な場合もある。	○ サービスの利用開始前の関係作りが必要。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を行い、場合によっては他の事業所のサービスにつなげる等の対応に務めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	やむを得ずすぐに利用になった場合は、ご家族やそれまで関わってこられた関係者の方に来ていただくなどして、安心感を持ってもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側、される側、という意識を持たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるよう場面作りや声掛けをしており、入居者の方から「お互い様」の声があっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族の思いに寄り添いながら日々の暮らしの情報共有に務め、ご本人と一緒に支えるために支援していることを伝えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人の日ごろの状態をこまめに報告すると共に、手紙をご自身で書いていただくなど関係が途切れないように留意している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの商店や美容院に行き、知人の方と会話ができるよう出かけていく機会を作っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係性について情報を交換し、すべての職員が共有できるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用が終了した後も、ご家族からの相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声を掛け、把握に努めている。希望、意向があった場合はすぐに記録するようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に、ご本人やご家族の方から聞き取りを行っている。また、ご本人から聞いたことをすぐ記録するノートがある。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、できないことよりできることを注目し、その人全体の把握に努めていく。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人やご家族には、日頃のかかわりの中で意見を聞き、反映される様になっている。アセスメントを含め職員全員で意見交換を行っている。	○	本人の意見が少ないので、それを引き出す必要あり
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化が生じた場合は、期間が終了する前であっても検討見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子や本人の言葉を記録するようにし、それを職員が確認できる様にしてあり、勤務開始前の確認は義務付けている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人家族様の状況に応じて通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高める様努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられる様地区区長・消防指導隊長さんと意見交換をする機会を設けている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスは利用していない。	○	他のサービス利用を取り入れていく必要がある。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの協働機会が殆どない。	○	機会を増やす必要がある。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御家族と協力し、通院介助を行ったり訪問診療に来てもらうケースもあり、複数の医療機関と関係を密に結んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	精神科医と診断情報や治療方針、認知症についての指示や助言をもらっている。また、年一回勉強会の講師をお願いしている。	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	看護職員を配置しており、常に状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員がいない場合でも、電話連絡により指示を受け対応している。	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	入院時には職員が頻繁に見舞うようにしている。また、家族様とも情報交換をしながら回復状況等速やかな退院支援に結びつけている。	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	終末に対する対応方針を定め、入居時に意志確認書を記入して頂いている。	○ 開設してすぐの入居者の方についての確認書がない為、早期確認が必要。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	家族様と話し合い、利用者が安心して納得した最期が迎えられるよう取り組んでいる。急変した場合はすぐに対応して頂ける様医療機関と連携を図り対応している。	
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	他の事業所に移られた場合、アセスメント・ケアプランを手渡している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	施設内研修やミーティングの時に職員の意識向上を図ると共に、日々のかかわり方をリーダーが点検し、利用者のプライバシーを損なわない対応の徹底を図っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	おやつ等も同じ物ではなく、複数の中から選んで頂くなど選びやすい場面作りをしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩等一人ひとりの思いに配慮しながら柔軟に対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行事等、日頃から化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設の施設に畑があり、一緒に作り収穫した野菜を調理する等の活動を行い、食事を楽しんでいる。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品を本人の希望に応じて楽しめるようにしている。(お菓子・パン等)	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの時間を把握しており、トイレ誘導している。失禁があっても、周囲に気づかれぬようスタッフ同士の暗号を使う等の工夫をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望時に入浴して頂いており、入浴を拒む人に対して言葉かけや対応の工夫、チームプレイ等によって気分良く入浴されるよう配慮している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整える様努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえる様お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所が管理している人でも、外出時のお金は自分で払って頂けるようにお金を手渡すなどの工夫をしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの散歩だけでなく、その人の馴染みの店や場所へ出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族様と温泉旅行に行かれる機会がある。	○	遠くへの外出の機会が減っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月近況報告を行い、入居者本人にお願いして書いて頂くこともある。また、手紙や絵手紙等も出している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	24時間面会ができ、希望により泊まれる方も歓迎している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、身体拘束によって利用者が受ける身体的・精神的弊害について理解し、拘束のないケアを実践している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうな様子を察知したら、止めるのではなく、さりげなく声をかけたり、一緒について行く等安全面に配慮して自由な暮らしを支えている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は見守る職員を明確にしており、夜間は時間ごとに利用者の様子を確認し、起きられたらすぐに対応できる居場所を工夫している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせて注意が必要な物品は何かを職員で把握し、管理方法の取り決めをしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤリハットを記録し、職員の共有確認を図っている。万が一の事故が発生した場合は、速やかに予防策の検討会を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の急変時の対応マニュアルをスタッフの部屋の壁に貼り、常にイメージできるようにしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練・消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	自由な外出によりリスクが高くなるものの、力の発揮や抑制感のない暮らしが利用者の表情を明るくし、むしろ行動の障害を少なくしていることを家族にも説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調や些細な表情の変化も見逃さないよう早期発見に取り組んでいる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の内容(目的・用法・用量・副作用)を把握できるよう最新薬情報としてファイルしている。また、法人全体での薬についてのテストも時々あっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの食事・排泄・活動状態等を見直し、自然排便を促す工夫を個別にしている。また、腹部マッサージも行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	1日3回うがいを実施して頂いており、夕食後は歯磨きを本人の能力に応じて支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて食事・水分の摂取量を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防についての勉強会を看護師にお願いし、実施している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防マニュアルをいつでも確認できる場所に設置しており、ふきんは毎日漂白し、冷蔵庫内の確認・洗浄を定期的に実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花を生けたり玄関先にプランターを置いたりして季節感を演出している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆず湯や菖蒲湯、鍋料理や山菜御膳会など五感刺激と季節感を感じていただく事を意識した工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他人の気配を感じながらも一人で過ごせる居場所作りの工夫をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの利用者の好みや馴染みの物などを生活スタイルに合わせて用意している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	一定の時間帯に換気をしており、温度調節について職員は常に意識をもって対応している。夜間については冷・暖房使用時間をきっちりと記録している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能の変化等に考慮し、利用者の「現在の状態」に応じて移動バーの設置等生活環境の改善に取り組んでいる。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの混乱を招くような環境の原因に対して、速やかに補修や工夫を行っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に花を植えたりなどのスペースを確保し、利用者が日常的に楽しみながら活動できる環境を作っている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)